

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年3月3日

事業所名 StairYouth Tsukushi

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4件 (100%)	—	・メンバーさんの距離が密にならないよう配慮している。 ・㎡数は基準より広く、プログラムに必要なスペースを適切に確保できている。 ・集団の中で過ごすことが難しい時に休憩できるスペースを設けている。	・今後も継続する。
	2 職員の配置数は適切である	4件 (100%)	—	・現在の人員では、自力通所練習を含めても必要な人員が配置できている。 ・配置数が減少した場合は、自力通所練習の実施について、方法や回数等を検討や変更する必要があると考えられる。	・今後も継続する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	—	4件 (100%)	・建物内にエレベーターはあるが、廊下、入口、トイレ等に段差や狭い場所がある。 ・事業所内は基本的に段差が少ない作りになっているがトイレに関してはフロアから扉まで10cm程の段差があるため、初めて利用される方や個別に配慮が必要な場合はその都度声掛けを行っている。 ・手摺り等は階段以外では少ないが、エレベーターを使う等、工夫している。 ・ハード、ソフトの環境調整が必要な方から利用の相談や見学希望がある場合、事業所の環境や行える配慮を具体的に伝え、相談者や見学者の要望や必要な配慮にできる限り応えられるよう工夫している。	・今後も継続する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4件 (100%)	—	・日頃のミーティングで、スタッフ間で気付いたこと(よかったことや改善が必要なこと)を共有し、目標設定や振り返りを行っている。	・今後も継続する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4件 (100%)	—	・利用満足度調査を毎年実施している。 ・保護者さんから頂いた意見やアンケート回答内容をスタッフ間で共有し、支援内容を振り返りながら、業務改善に努めている。 ・毎年、保護者さんとの懇談を行い、ニーズやメンバーさんに関する近況の変化等を聴き取り、支援に生かしている。	・今後も継続する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4件 (100%)	—	・HPと事業所内で掲示し、公開している。 ・保護者さんへ配付している。	・今後も継続する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	—	4件 (100%)	・現在、第三者評価は受けていない。	・今後、第三者による外部評価導入の必要性等を検討する。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4件 (100%)	—	・参加できる研修を増やせるよう、オンラインでの研修にも参加している。 ・法人内で行っている研修の他に外部で行われている研修にも参加している。 ・外部研修を含めた研修情報を周知している。 ・研修の内容等をスタッフ間で共有している。	・今後も継続する。
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4件 (100%)	—	・年に一度 保護者さんと懇談を行い、課題やニーズに相違がないか確認共有を行い、支援計画を作成している。 ・支援計画作成時は、スタッフ間で内容の共有や意見交換を行っている。	・今後も継続する。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4件 (100%)	—	・児童発達支援管理責任者と担当支援員のアセスメント以外に、公認心理師がWISC-Vによる、アセスメントを行っている。 ・プログラムを通して気付いたことを、随時共有し、支援内容について意見交換している。	・今後も継続する。

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4件 (100%)	—	・前週や当日の朝のミーティングで、意見交換、プログラムの立案を行っている。 ・担当のプログラムがある中で、より良い内容の活動が行えるよう職員間で共有、助言、提案を行っている。	・今後も継続する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4件 (100%)	—	・各日のプログラムの「ねらい」や「見込まれる効果」をスタッフ間で共有している。継続性が必要なプログラムでも、アプローチの手法を変える必要がある場合は、変更する等工夫している。	・今後も継続する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4件 (100%)	—	・メンバーさんの利用時間に応じて、通常授業終了後、短縮授業終了後、長期休暇へ対応できるカリキュラムを職員間で相談し、支援している。 ・メンバーさんによってカリキュラムの「ねらい」や「期待される効果」を検討し、課題の軽減や解消につながるよう支援している。	・今後も継続する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成している	4件 (100%)	—	・子どもが、いつもと違う様子の時は、相談室で個別に話せる機会を設けている。 ・支援内容を検討する際、プログラムのみでなく、休憩時間の過ごし方を含めた支援内容を検討している。また、日頃の生活につなげる工夫等を、支援内容へ組み込んでいる。	・今後も継続する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4件 (100%)	—	・当日 朝のミーティングにて、その日のプログラム内容や利用予定メンバーさんの確認やその他の共有を行い、プログラムの準備不足や送迎漏れがないように留意している。	・今後も継続する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4件 (100%)	—	・当日の支援終了後や翌日のミーティング時に、1日の振り返りや共有事項を確認し、職員間での相違や伝達漏れがないように留意している。 ・振り返りでは、支援を行った反応、改善点や良かった点 等について、できる限り全スタッフで意見交換し、不在のスタッフには個別に伝達している。	・今後も継続する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4件 (100%)	—	・できる限り、対応した者が記録を書くように心がけている。 ・第三者が理解しやすい記録をとることを心掛け、日々の支援の振り返りに役立っている。 ・支援計画に沿った内容以外でも、気づいたことやその対応を記録している。 ・記録内容で、気づいたことがあれば、スタッフ間で意見交換している。	・今後も継続する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4件 (100%)	—	・最低でも6か月に1回はモニタリングを行い、支援計画を見直している。また、ご本人を取り巻く環境を含めて、状況に著しい変化がある等、見直しが必要な場合、随時モニタリングを行い、支援計画を見直している。	・今後も継続する。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	4件 (100%)	—	・日常生活や自立生活を支援するための活動(買い物練習・通所練習・ゲーグルマップを活用した移動等)、社会生活や社会経験の幅を広げる活動(企業見学会・障がい福祉サービス事業所見学会)、余暇の提供(休憩時間にタブレットで動画鑑賞・おやつを食べる等、自由な過ごし方を相談して考える・療育ゲーム等)、創作活動(季節に応じた外出・季節感のある制作活動等)を、組み合わせ、支援している。 ・今年度は、新たに乗り換え練習(路線図を確認しながら出発地から目的地までの乗り換え方法を考える)を実施した。	・新しいプログラムの検討や既存プログラムの見直し等を行い、支援の質向上につなげる。
	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	4件 (100%)	—	・事前に職員間でメンバーさんの状況の共有漏れがないか確認を行い、児童発達支援管理責任者と対象メンバーさんの状況を最も理解している職員が参加している。	・今後も継続する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4件 (100%)	—	・自力通所の練習時、担当教諭と学校や事業所での様子を共有している。必要に応じて、メンバーの担当教諭に電話連絡や訪問にて、事業所での様子や支援の方向性を伝えている。 ・必要に応じて事業所の予定や学校の予定を共有している。	・今後も継続する。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	—	4件 (100%)	・利用開始時に、「医療機関名、主治医、医療機関の電話番号」を記載してもらっています。 ・看護師を配置していないため、医療的ケアが必要な方の受け入れはできません。	・現状では看護師を配置していないため、医療的ケアが必要な方の受け入れは難しい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	—	4件 (100%)	・必要であれば行っていきたい。	・現在、就学前の関係機関と日々の情報共有が必要な方はいないが、必要に応じて情報共有や相互理解を図るための連携を行い、関係を深めていきたいと考えている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4件 (100%)	—	・ご家族やご本人に移行先事業所への情報提供に関する希望等を確認し、必要に応じて、情報提供を行う。	・今後も継続する。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1件 (25%)	3件 (75%)	・発達障がい支援センターが開催する研修には内容に応じて、参加している。しかし、支援に関する相談、助言は行っていない。 ・事業所アセスメントのための心理検査結果について、外部の専門機関から必要に応じてSVを受けている。	・必要に応じて、これまで連携を図っていない専門機関とも連携する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	—	4件 (100%)	・交流活動を行っていない。	・交流方法の検討や相互理解のため、スタッフの見学は行ったが、具体的な活動の機会は作れなかった。今後、具体的な活動の機会を作りたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1件 (25%)	3件 (75%)	・事業所連絡会(すみすみ)に参加している。住吉区子ども部会には参加できていない。	・今後、住吉区子ども部会に参加できる機会があれば、参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4件 (100%)	—	・児童の様子で気になること等があれば、「電話・メール・文書」にて共有している。 ・保護者と共通理解を持てるよう、日頃の状況や気になった点等を電話連絡、自力通所練習の待ち合わせ等で、伝えあっている。	・2月下旬から保護者面談を行っており、家庭や事業所での様子などの情報を共有し、発達の状況や目標について、共通理解をもてるように取り組んでいる。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	—	4件 (100%)	・家庭で取り組める環境設定等の相談があれば、保護者へ助言している。また、必要に応じて、他サービス事業所の紹介を行っている。	・日頃から保護者との情報共有を行い、信頼関係を構築しながら、相談しやすい関係づくりに取り組む。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4件 (100%)	—	・契約時に契約書、重要事項説明書の内容や利用者負担額等を書面を用いて説明している。内容に変更等があれば、書類の配付、説明を必要に応じて行っている。	・今後も継続する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4件 (100%)	—	・状況に応じて、スタッフ間で共有、相談をした後、保護者さんに必要な助言と支援を行っている。 ・必要に応じて、悩みに対する助言や事業所として取り組めること等を提案している。 ・その都度、面談の機会を設けている。	・今後も継続する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	—	4件 (100%)	・必要があれば開催したい。 ・現在、保護者会等は開催していない。企業見学会等に、複数の保護者さんが参加する場合、情報共有がスムーズに行えるよう配慮している。	・保護者さん向けの「福祉サービス、福祉に関する制度等の勉強会」の開催を検討中であり、保護者さん同士が交流できる工夫も検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4件 (100%)	—	・共有を行い、対応を検討した上で行っている。 ・苦情があった場合は迅速かつ適切に対応できるよう第三者委員の委託等、苦情解決体制を整備している。	・苦情があった場合は、誠意をもって迅速かつ適切に対応する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4件 (100%)	—	・法人の広報誌、SNSやHPIにて、活動等を報告している。 ・事業所の1か月間の活動内容が詳しくわかる振り返り資料を月に1回配付している。 ・年間行事予定や行事の事前案内書類にて、その都度、連絡先を知らせている。	・今後も継続する。
	35	個人情報に十分注意している	4件 (100%)	—	・契約時に個人情報使用同意書にて、個人情報に当たる書類や情報を説明し、署名をいただいている。 また、職員には雇用契約時に秘密保持に関する書類に署名をもらっている。 ・SNS、HP、会報への写真の掲載について、書面での同意を得ている。写真の掲載方法については、同意内容のとおり、適切に扱っている。	・今後も継続する。

非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4件 (100%)	—	・実物での提示、工程表の作成、筆談等、それぞれの意思疎通や情報伝達に必要な配慮を行っている。 ・保護者さんと、電話連絡が取りづらい場合やご本人から情報を伝達することが難しい場合は、メールで連絡を取り合う、口頭説明だけでなくメモや書類を渡す等、工夫している。	・今後も継続する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	—	4件 (100%)	・現在、地域住民を招待する行事は行っていない。	・実習生や学生ボランティアの受け入れ等、地域に開かれた事業運営の取り組みを検討する。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3件 (75%)	1件 (25%)	・マニュアルファイルを閲覧できるように設置している。	・保護者さんへマニュアルの閲覧ができるという情報が行き渡っていないため、保護者さんへ周知する。また、必要に応じてマニュアルを配付する等の工夫を検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4件 (100%)	—	・年2回、避難訓練を実施している。 ・スタッフとメンバーで避難訓練の良かった点や改善点等の振り返りを行い、災害等の理解が深まるよう工夫している。	・今後も継続する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4件 (100%)	—	・法人内での虐待防止に関する研修に職員全員が参加することで、適切な対応を学ぶ機会が設けられている。また、法人内の虐待防止委員会で議題となった不適切支援等の情報や検討内容をスタッフへ周知している。	・今後も継続する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	—	4件 (100%)	・やむを得ず身体拘束を行う場合は、事業所と法人の身体拘束適正化委員会にて、切迫性、非代替性、一時性や行動制限が必要となる状況、行動制限の態様及び時間などについて、検討する。検討した内容を子どもや保護者に事前に十分に説明し、同意書にて同意を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載し、行動制限を行った場合は、その態様及び時間、その際の子どもの心身状況並びに緊急やむを得ない理由等、必要な事項を経過記録に記載することとしている。	・現在、身体拘束は行っていないが、必要となる場合は、左記のとおり十分な検討と説明を行い、同意を得た上で支援する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	4件 (100%)	・アレルギーの種類や対応が必要な内容について、保護者へ確認及び相談している。また、フェイスシートに確認した情報を記入している。 ・必要があれば、行ってきたい。	・必要に応じて、医師の指示書を確認し、対応する。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2件 (50%)	2件 (50%)	・事例集を作成してはいるが、その都度共有し、事故報告書やヒヤリハットを作成し、事業所内で共有している。	・ヒヤリハット事例集を作成や定期的に振り返ることができるとの取り組みを検討する。	